



## ピースボート Voyage117 ヒバクシャ地球一周 証言の航海

*Global Voyage for a Nuclear-Free World on Voyage117*

### プロジェクトの趣旨

#### 「世代と国境を越えて」

この瞬間も、核兵器の威力を誇示して武力侵攻や戦争が続いています。多くの市民が犠牲になっているにも関わらず、国家間のパワーバランスの中で、軍事大国の暴挙に対して有効な手立てを打てない現状です。しかも、核兵器を威嚇として利用する国も人も、たった一発の使用でも世界に取返しのできない壊滅的な被害を生じることが十分に知りません。

その一方で、被爆者や世界の核実験被害者の長年の訴えに応える形で誕生した核兵器禁止条約は確実に世界的な支持を広げ、核の非人道性に対する国際的関心が高まっています。広島・長崎の原爆や世界各地の核実験が人間に何をもたらしてきたのかを今一度みつめ、その声と経験を中心に据えて核兵器を禁止していこうという動きが広がっているのです。

ピースボートも、この世界的な動きに参加しています。被爆国・日本を本拠とする国際 NGO として「核兵器の非人道性を世界に訴え、核兵器のない世界を実現する」という使命を改めて思い出し、「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」を再開します。今こそ、世代と国境を越えた多くの人々とともに、核兵器禁止条約への参加を促し、核兵器をなくすための具体的な歩みを強めていきたいと思ひます。

2023年 12月

国際交流NGO ピースボート

**PEACE  
BOAT**

## 参加者の概要

### ■被爆者（若干名）

地球一周の船旅の中で、被爆体験の証言等を通じて核兵器の惨禍の実相を広く伝え、次世代に継承すると共に、核なき世界の実現を船内および世界各地の寄港地で呼びかけます。

### ■おりづるユース特使（数名-公募）

地球一周の船旅の寄港地および船内で、参加被爆者と協力し核兵器の惨禍の実相を伝えると共に、核と平和の問題への関心を高める企画を行うユースを日本の国内外から募集します。核兵器や関連事項についてのディスカッション、プレゼンテーションを英語でできる方を優先的に選考します。また日本語が母語でない方に関しては、日本語でのコミュニケーション能力がある方を優先します。（詳しくは、募集要項をご覧ください。）

※クルーズ参加に必要な諸経費（約28万円）、海外旅行保険は自己負担となります。

※乗船前に行われるオリエンテーションや、下船後の報告会などにも参加していただきます。

※参加被爆者は「非核特使」の申請を、おりづるユース特使は一定の研修を経た上で「ユース非核特使」の申請を、それぞれ日本政府に行うものとします。

応募締切：2024年1月15日（月）必着 / 発表時期：2024年1月下旬

## 船旅の概要

クルーズ ピースボート・地球一周の船旅 Voyage117

期 間 2024年4月13日（土）～2024年7月26日（金）横浜発着105日間

寄 港 地 22カ国26寄港地

シンガポール/マレーシア（クアラルンプール）/モルディブ（マーレ）/エジプト（ポートサイド）/ギリシャ（サントリーニ島/ピレウス）/イタリア（カタニア）/スペイン（モトリル）/ポルトガル（リスボン）/フランス（ル・アーブル）/イギリス（ロンドン [ティルベリー]）/フィンランド（ヘルシンキ）/エストニア（タリン）/スウェーデン（ストックホルム）/デンマーク（コペンハーゲン）/ノルウェー（ベルゲン）/アイスランド（レイキャビク）/米国（ニューヨーク）/コロンビア（カルタヘナ）/パナマ（クリストバル）/コスタリカ（プンタレナス）/メキシコ（マンサニージョ）/カナダ（バンクーバー）/米国（ケチカン/スワード）



旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス

〒169-0075 新宿区高田馬場1-32-13 マリンビル2F Tel 03(5287)3081 Fax 03(5287)3083

観光庁長官登録旅行業第617号 (社) 日本旅行業協会正会員 <http://www.japangrace.com>

## 寄港地や訪問先での活動

### ■核兵器禁止条約へ

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)\*<sup>1</sup> や平和首長会議\*<sup>2</sup> と協力して、寄港する先々で核兵器の非人道性を訴え、核兵器禁止条約への参加を呼びかけます。

\*<sup>1</sup> 核兵器廃絶国際キャンペーンは、核兵器を禁止し廃絶するために活動する世界のNGO(非政府組織)の連合体です。(2023年12月現在、110カ国から650団体) 核兵器を国際法で禁止するキャンペーンを世界的に展開し、核兵器禁止条約の国連での成立に大きく貢献したことが評価され、2017年のノーベル平和賞を受賞しました。

\*<sup>2</sup> 平和首長会議は、世界の都市が国境を超えて連帯し、核兵器廃絶への道を切り開こうという 広島・長崎両市長からの呼びかけに賛同した都市で構成されています。1980年代に始まった世界規模のネットワークは、今日では166カ国・地域8,342都市が参加するまでに拡大しています。(2023年12月1日現在)

## 船内での活動

### ■世代を超えた証言の「継承」

被爆者とユースがともに協力をして、証言の集いや原爆写真ポスター展、ワークショップなどを開催する中で、戦争体験の継承を実践します。

### ■世界の核問題への理解を深める

ウラン採掘、核実験、原発事故などの経験を学ぶ学習会を実施するほか、部分乗船する各国の専門家と交流・意見交換を行う中であらためて現在の核問題について理解を深めます。

### ■ディスカッション！戦争を止め、繰り返さないために

寄港する先々で出会う、戦争や武力紛争の被害者らとの交流を通して学んだことを船内へ持ち帰り、現在の争いを止め、繰り返さないために討論します。日本の戦争体験との共通点・相違点の比較なども話し合います。

### ■核兵器が使われないための具体的な方法を探る

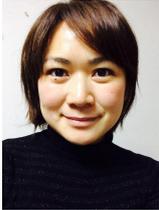
核兵器の使用を示唆することで戦いを優位に進めようとする戦争が、今日また繰り返されています。核兵器の役割や非人道性、国や自治体への働きかけ、ソーシャルメディアの使い方などを議論します。気候変動や感染症の世界的な広がりなど、地球規模のリスクとの関連性も視野に入れて、戦争に繋がる偏見や差別、暴力の連鎖を断ち切る具体的な方法を模索します。

## これまでに船旅に参加した被爆者とユースからのメッセージ



### 服部道子さん(広島被爆、当時16歳)

私は85歳にして初めてパスポートを取得し証言の航海に参加しました。世界各地で「被爆者と出会って初めて写真や文献では決して理解しえない原爆の威力、被害の実相を知ることが出来た」と言っていたいただき、あらためて活動の意義を感じました。共に旅する若者たちが新しい感覚で継承に取り組んでいる様子も頼もしいです。



### 浜田あゆみさん(高知出身、役者)

私は役者という立場を活かして、被爆者の証言や原爆の被害の実相のほかに、現代に繋がる問題や若者が抱える問題をテーマにして多様な演劇を制作しました。世界をどのように自分たちの望む世界に変えていけるのか真剣に考え、実行することが出来ました。これは、私たちユースの特権であり、最高にやりがいを感じる事の出来る活動です。



ピースボート **PEACE BOAT**

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1  
Tel 03(3363)7561 Fax 03(3363)7562  
<https://peaceboat.org/projects/hibakusha>  
<https://hibakushaglobal.net/>

ピースボート Voyage 117 「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」  
後援 (一部申請中)

広島市 / 長崎市 / 平和首長会議 / 日本原水爆被害者団体協議会  
公益財団法人広島平和文化センター / 公益財団法人長崎平和推進協会